

## 1 研究主題について

(1) 研究主題 生きて働くための「書くこと」指導の工夫改善  
～「書き方」を身に付け、楽しく文章を書く姿を目指して～

### (2) 主題設定の理由

全国学力学習状況調査の結果を見ると、本校の児童は、「目的に応じて、自分の考えを書く」「目的に応じて、構成を考える」「考えながら伝わるように書く」など、『書く』力が弱いことが分かった。そこで、2学期からは、国語だけでなく、他教科でも書く機会を増やし、授業の終末の振り返りを文章で書きまとめる取組を全校で行っていく予定である。

本学級でアンケートをとったところ、「文章を書くことが得意ではない」と答えた児童は、23人中半数を超える結果になった。特に多かった児童の困り感は、「何を書けばいいのかわからない」「頭では浮かんでいても、言葉がでてこない」「書いてみると文がおかしい」「自分の文章がうまく書けているのかわからない」であった。

どう書けばよいかを明らかにしながら、「書き方」を身に付ける指導を行ったり、習得した内容を他教科でどう活用していくか再度丁寧に指導したりすることによって、児童が感じている困り感を和らげ、楽しく文章を書ける姿を目指したい。

### (3) 目指す児童の姿

- ・作文の基本的なきまりやより分かりやすい書き方を理解し、意欲的に書こうとする児童
- ・既習内容を、他教科や日常生活に生かし、楽しみながら文章を書く児童

## 2 研究内容について

### (1) 研究仮説

作文の基本的なきまりや文法、より分かりやすい文章を書くための「書き方」を身に付ける指導を行ったり、習得した内容を他教科に活用する場を設定し、見本を示しながら指導したりすることによって、児童が感じている困り感が和らぎ、楽しく文章を書けるようになることを考える。

### (2) 研究内容

研究内容1 文章の「書き方」を身につけるための指導の工夫

- ① 付けたい力の明確化
- ② 児童が文章を読み直す習慣をつけるための学習活動の位置付け

研究内容2 教科等横断的視点を取り入れた授業改善

- ① 他教科での活用

### 3 実践事例

#### 研究内容1 文章の「書き方」を身につけるための指導の工夫

第3学年 国語科 「すがたをかえる大豆」、「食べ物のひみつを教えます」

単元を貫く課題：文章をわかりやすく書くためのワザを見つけ、それを使ってせつ明する文章を書こう。

言語活動：「すがたをかえる大豆」で見つけた分かりやすく文章を書くための工夫を使って、「食べ物のひみつ」を説明する文章を書く。

重点指導事項：日書くこと

◎文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

○書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

#### (1) 付けたい力の明確化

⑤	④	③	②	①	【文章の書き方】
説明の順番	まず、次に、最後に	段落の最初に中心となる文	一つの段落に一つの工夫	はじめ・中・おわりの	

第一次「すがたをかえる大豆」の学習で、文章を分かりやすく書く方法を学び、第二次で実際にそれを使って作文を書く活動を仕組んだ。

文章を分かりやすく書く方法、①～⑤(左図参照)に絞って表にまとめ、第一次初めに児童に提示した。授業を進めながら、学習を終える度に、丸を書きこんでいくようにした。

第二次では、この表を見ながら作文を書いたり、読み直す際に「書き方」が実際に使われているか確かめたりすることに活用した。

#### 〈児童の様子〉

配布された表に書かれた5つの項目を手掛かりに、文章を分かりやすく書くための方法を文章中から積極的に探そうとする姿が見られた。第二次では、児童自身が表を何度も見返しながら、見つけた5つの方法を使って、文章を書くことができた。

#### (2) 児童が文章を読み直す習慣をつけるための学習活動の位置付け

アンケートによると、文章を読み返す習慣がない児童がほとんどであった。文章を読み返しても、何を直していいか分からないといった児童の声から、もう一度読み直す際に何を確認すればいいのかを示したチェックシートを用意した。児童たちに、チェックシートを見ながら初歩的な文法の間違いを確認させ、青色で直すよう声をかけた。回収後、教師が赤色で添削をした。

また、授業だけでなく、毎週行っている日記でも、文章を書いた後は自分でチェックシートを使って確認するように声をかけた。

#### 〈児童の様子〉

チェックシートを見ながら、一人一人が自分の文章を読み直すことができた。チェックしながら、あいまいな点を教師に質問する児童が増えた。文章を書く段階で、正しく書くことを意識する姿が見られるようになった。自分の間違いを直すことができる児童もいたが、チェックシートを見ても、間違いに気付けない児童もいた。

作文のきまり	1	文のさいごに「く」がついているかな？						
	2	「 <sup>おと</sup> 」をつけたほうがよいところは ないかな？						
	3	文のさいごは <u>です</u> <u>ます</u> <u>した</u> になっているかな？						
	4	行をかえたら <u>1マスあけて</u> あるかな？						
	5	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> の位置は合っているかな？	○					
	○							
6	行の一番上に <u>、</u> をおいていないかな？							
言葉	7	ひらがなは合っているかな？ ▲ぼくは、 -○はくは、 ▲おれさん -○おれさん ▲ボールを -○ボールを ▲家へ行く -○家へ行く ▲〜とゆう話 -○〜という話						
	8	小さい「っ」「ゃ」「ょ」は合っているかな？						
	9	カタカナは合っているかな？						
	10	漢字、送り仮名は合っているかな？						
	11	「ら」が始まっていないかな？ ・食べらる▲ -食べられる○						
	12	話し言葉を使っていないかな？ ・なので▲ -だから○ ・すごくキレイ▲ -とてもきれい○ ・やばい▲ ・〜してるけど▲ -〜しているけど○						

【作文チェックシート】

**研究内容2 教科等横断的視点を取り入れた授業改善**

**第3学年 学活 「歌声発表会に向けての意気込み」**

言語活動 : 歌声発表会に向けて頑張りたいことを、文章に書く。

**関連指導事項：B書くこと**

- ◎書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
- 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

**既習内容 : ①「はじめ」「中」「終わり」の組み立て ②段落の最初に中心になる文**

「すがたをかえる大豆」で学習した“「はじめ」「中」「終わり」の組み立て”と“段落の最初に中心になる文”の書き方を使って、10月末に催される歌声発表会に向けてのめあてを文章で書く活動を設定した。見本となる文章を黒板に提示し、既習内容①、②を全体で確認した後、文章を書かせた。

歌声発表会に向けて頑張りたいことは三つあります。

一つ目は、大きな声を出して歌うことです。運動会の応援のように、大きな口形で歌いたいです。

二つ目は、目やまゆ、ほおなどの表情も大切に歌うことです。いつも表情が暗くなってしまっているので、明るい表情で歌いたいです。

三つ目は、仲間二十四人と強弱や息をすうタイミングをぴったりそろえて歌うことです。歌詞の思いを感じながら二十四人全員の気持ちを一つにして歌いたいです。

聞いている人が思わずいっしょにうたいたいくなる楽しい発表になるように、この三つを頑張ります。

**〈児童の様子〉**

どの児童も、“「はじめ」「中」「終わり」の組み立て”に注意して、文章を書くことができていた。文章全体の組み立てを考えてから書き始めることによって、一つ一つの段落を意識しながら書くことができた。“段落の最初に中心になる文”は書けた児童が多かったものの、その後続く文を書くことが、やや難しい様子だった。

**第3学年 社会科 「店ではたらく人」**

言語活動 : 社会科見学で見つけたスーパーマーケットの工夫を、文章に書きまとめる。

**関連指導事項：B書くこと**

- ◎文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
- 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

**既習内容 : ①接続語 ②説明の順の工夫**

「すがたをかえる大豆」で学習した“「まずは」「次に」「さらに」の接続語”“説明の順の工夫”の書き方を使って、社会科見学で見つけたスーパーマーケットの工夫について、文章を書く活動を設定した。見本となる文章を黒板に提示し、既習内容①②を全体で確認した後、文章を書かせた。

スーパーマーケットには、いろいろな工夫があります。

まずは、お客さんに商品を素早く見つけてもらうための工夫です。天井から看板を下げたり、目につく場所に棚を作ったり、べたりしています。

次に、お客さんに商品を気持ちよく買ってもらうための工夫があります。魚を切ったり、氷を配ったりする無料のサービスを行っています。

さらに、地域の人々にこうけんするための工夫もあります。リサイクルコーナーを設置したり、地域のイベントに駐車場をむりようで貸し出したりしています。

このように、スーパーマーケットには、お客さんが足を運びたくなる工夫がたくさんあるのです。

**〈児童の様子〉**

“「まずは」「次に」「さらに」の接続語”を使って書こうとすることによって、どの順に書くか、自然と書く前に文章の構成を考える姿につながった。今回は、“「はじめ」「中」「終わり」の組み立て”や“段落の最初に中心になる文”について確認しなかったが、意識して書くことができていた。

教科等横断的視点から、国語で学んだ内容を生かして書く場面を以下のように想定している。

#### 《 社会科 》

- ・「いろいろな店」において、“コンビニや商店街の工夫” “アウトレットモールの工夫”（10月頃）
- ・「農家の仕事」において、“まがりねぎづくりの工夫” “米づくりの工夫”（11月頃）
- ・「工場の仕事」において、“ささかまぼこづくりの工夫” “陶器づくりの工夫”（12月頃）

#### 《 理科 》

- ・「つくってあそぼう」において、“考えたおもちゃの説明書”（3月頃）

※単元のまとめにおいて、“分かったこと”

#### 《 算数 》

※単元のまとめにおいて、“分かったこと”

#### 《 音楽 》

『いろいろな音のひびきをかんとろう』（11月頃）

- ・「山のポルカ」において、“思いや意図をもった演奏の工夫”
- ・「おかしなすきなまほう使い」において、“魔法らしくするための楽器選び、演奏の仕方の工夫”
- ・「パフ」において、“リズム伴奏の楽器の組合せや終わり方など、グループ演奏の工夫”

『日本の音楽に親しもう』（11月頃）

- ・「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」鑑賞において、“楽器の音色や反復、速度やリズムの特徴”

#### 《 図工 》

- ・「これにえがいたら」において、自分の作った作品の工夫（9月頃）

- ・「だいすきな物語」において、友達作品鑑賞（10月頃）

#### 《 学活 》

- ・「歌声交流会」の振り返り（11月頃）

- ・前期の係活動の振り返り、後期の係活動のめあて（10月頃）

など

## 4 成果と課題

- 児童に指導したい文章の書き方を①～⑤の5つに絞って表にまとめたことで、「食べ物のひみつ」を説明する文章を書く際に、児童が何度も自分で確認しながら、5つ全てを使って文章が書くことができた。児童にとって、どのような文章を書けばよいのか明らかになり、学習が主体的に進んだ。
- 自分の書いた文章を読み直す習慣がついた。日頃の文章を書く活動でも、漢字を書こうとしたり、改行したりする児童が増え、正しく分かりやすく書こうとする意識が高まった。
- 国語で学習した内容を他教科で活用する活動を設定したことで、児童自身が学習の有用性を感じながら、楽しく文章を書くことができた。活用を繰り返すことで、文章を書くのにかかる時間が少しずつ短くなり、他の機会でも文章の組み立てを意識する児童が増えた。学習内容の定着にもつながった。
- 自分の文章を読み返しても、間違いに気づかない児童がいた。
- 文章の書き方を提示して指導するため、時間がかかる。提示されることによって、見本通りに書こうと悩む児童もおり、やや負担がかかる。

## 5 課題克服のための今後の方向

児童が直した文章を教師が赤で添削する際に、ミスの内容について一言添えたり、一部分を書き直させたりしていく。

国語の教科書を活用したり、仲間の書いたよい文章を教師が紹介したりしていく。書いた文章を毎回フィードバックし、自分の文章を読み比べて成長に気づかせたり、自分の文章を手本にさせたりする。

他教科等で活用する際には、国語で学習した内容に適した教材であるかをよく吟味する必要がある。児童自身にどのような文章を書くときに適しているか考えさせながら、継続的な指導をしていく。